



UNウィメンを知っていますか？

～ ジェンダー平等に取り組む機関の紹介 Part1～

ジェンダー平等や男女共同参画の推進に取り組んでいるのは、パレア松本だけではありません。世界中、そして日本中に様々な機関があります。今回はその中でも国際連合（国連）の機関として、「UN WOMEN (UNウィメン)」をご紹介します。御存知でしょうか？

どんなことをしているの？

ジェンダー平等の推進と女性のエンパワメントのための組織です。
国連の加盟国がジェンダー平等の達成を目指し、国際基準を策定するためのサポートを行っています。また、国連システム全体のジェンダー平等を主導・調整する任務も担っています。

いつ創設されたの？

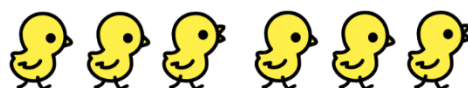
2011年に、それまであった4つの機関（国連女性地位向上部、国際婦人調査訓練研究所、国連ジェンダー問題特別顧問事務所、国連女性開発基金）を統合して創設されました。

国連ではジェンダー平等の活動に対して、長年、資金調達や全体的な総括の不十分さが指摘されるなどの課題に直面していましたが、統合によって大きな影響を与えられるようになりました。

日本にも事務所があるの？

あります！ UNウィメン本部はニューヨークにあり、世界各地に6つの地域事務所、4つの他国事務所、50の国別事務所、32のプログラム事務所、7つのリエゾン・オフィス（連絡事務所）を展開しています。（2018年12月現在）。

日本にはアジアで唯一のリエゾン・オフィスがあります。東京都文京区役所の隣に事務所があるので、お近くに行かれた際は見つけてみてくださいね。



次回は日本国内の機関を紹介する予定です。

リクエストにつき、世界編をお送りします！

ジェンダー平等の扉を開いた偉人紹介

Vol.11

ジェンダー平等に尽力した世界の偉人をご紹介します

シモーヌ・ド・ボヴォワール (1908~1986)

フランス・パリ生まれ。作家、哲学者。

「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」で有名。

名門ソルボンヌ大学に入学。哲学の教員として高等中学で勤める一方、作家・哲学者として執筆活動を行っている。

作品を通して、女性が男性より劣った立場に置かれてきた背景を歴史の中から解明することを試みた。人工妊娠中絶合法化に貢献する等、女性の自由を促す取り組みもした。



今月知っておきたい言葉

ダイバーシティ

多様性のこと。

人種や性別、国籍、年齢、障害の有無などに関わらず、個性が発揮できる社会をダイバーシティ社会という。

現在では、企業が様々な人材を発掘・登用することで、多様化するニーズに対応したり、アイディアの活性化につなげたりする経営戦略として使われている。

また、ダイバーシティ&インクルージョン(受容)という使われ方も多い。



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



『やめ主婦、はじめました!』 (大野清美著、言視舎、2020年)

片付けたくても家族に邪魔される、という経験がある人は実は多いのかもしれない。自分の時間と空間が欲しい!と思った定年間近の女性が家族に了承を得た上で、平日は家族との暮らしをやめてみた体験談。悔いなく「自分」の人生を歩くために著者が行った努力と勇気に元気をもらえます。

『子育てで大事なことを全部まとめてみました』

(杉野珠理・荒田智史著、集英社、2023年)

臨床心理士と精神科医の夫婦が、子育てに関する様々なギモンや悩みを科学的な根拠に基づいて、わかりやすくまとめた本。子どもの成長ごとに大切にしたいポイントがまとまっています。もっと早くから知りたかった!



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見ることができます。

Facebook、X (旧 Twitter) もやっています!

松本市女性センター



<編集・発行>

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 / FAX 0263-37-1153

✉ kyousei@city.matsumoto.lg.jp